

地域別協議会における意見等の概要

1 田浦地域

【方策の検討について】

○田浦小と長浦小の統合ありきなのでしょうか。

⇒統合ありきではありません。田浦小の老朽化と両校の小規模化の課題を解決するためにどのような方策が良いのか検討していきます。

○子どもたちの気持ちが前向きになるような形が良いと思います。例えば、長浦小の場所と田浦中の場所に小中一貫校ができれば、子どもたちも新しい教育環境で気持ちが前向きになると思います。

○田浦小学校区を分割することは考えられないのでしょうか。

⇒通学距離や町内会・地域活動の区分もありますので、皆さまからご意見をいただきながら検討します。

○一番重要なことは、学校教育の質を上げることだと思います。

○教職員は、学校生活を充実させるために知恵を絞っています。人数が少ないからマイナスだとは思っていません。田浦小の一番の課題は、校舎の安全面であり、良い教育環境を提供できればと思います。

○田浦小と船越小を統合し、長浦小は逸見小と沢山小と統合するとバランスが取れるのではないのでしょうか。

⇒田浦小、長浦小、船越小は田浦中学校区、逸見小と沢山小は坂本中学校区になりますので、中学校区を考慮した検討が必要になります。

○小中一貫の教育に関して言えば、小学校高学年の専科制が積極的に進められている中なので、非常に魅力的な学校スタイルだと思います。

○長浦・田浦の小中学校併設校のシミュレーションに関しては、長浦には無理に中学校を作らず、逆に小学校の児童数を学区編成の部分でしっかりさせるようにしていけば、必ずしも両方同時に併設校を作る必要はないと思います。

○今回のシミュレーションは、人数と面積を合わせた点では良いアイデアだと思いますが、町内会や自治会の区割りにも関わる話になるので、該当地域の住民の理解も含め、深く掘り下げて検討していかなければならないと思います。

○田浦小中学校のシミュレーションの中で、行政の壁を越え、狭小ながらもわくわくするような小学校づくりを提案できれば面白いと思います。

- 田浦小学校と長浦小学校を単に合わせるだけではなく、全ての近隣地域を巻き込んだ計画を進めていければいいと思います。
- 小学校の統合は、基本的には反対です。
- 学校の統合により、学童クラブが家や学校から遠くなってしまうことと、1カ所の学童クラブに子どもが集中することが懸念されます。
- 学校がなくなることによる、心情面のケアが必要です。
- 地域への説明や意見を聴く機会が不足しているように感じているので、説明会やパブリックコメント等の機会を設けてほしいです。
- 田浦小学校の建築年数及び子どもの安全性を考えると、田浦小学校区を長浦小学校区に再編する案が有力だと思います。
- 田浦小学校と長浦小学校の再編だけではなく、近隣地域の小中学校も含めて広いエリアで長期的に検討することも必要だと思います。

【学校規模について】

- 両地域には児童が少ないですが、クラスにある程度の人数がいることは、子どもの学びや成長に必要なことだと思います。
- 田浦小の子どもたちが、長浦小にきた時にさまざまな心配があると思います。ただ、そのような変化を乗り越えられる子どもは、より成長できると思います。各学年1学級のところが2学級になると、より良い教育を目指す余地が生まれると思います。男女数のアンバランスが解消されることも教育的にメリットだと思います。
- 田浦地域の小学校の現状において、他の地区と一緒にすることで、子どもたちの集団での学びに繋がると思います。
- 昔と比べると、子どもたちが弱くなっています。特に小規模校では、小規模の良さもある一方で、人間関係が固定化されることでストレスを経験する機会がなくなっていると思います。問題が起きない学校が良い学校ということではなく、起きた問題について教師と一緒に乗り越えることで、さまざまなことを学べると思います。

【通学や通学路について】

- 田浦小と長浦小が統合した場合の通学距離が最長で約3kmとのことですが、低学年が心配です。
- 自転車や自動車等の交通量が多い国道を通らなければならないため、安全対策をど

のように行うかが課題になると思います。

○老朽化が進むトンネルが、地震にどこまで耐えられるのかが不安です。

○学校が遠くなることで、障害のある子どもが自力で登校できなくなることも考慮しなければいけないと思います。

○バス通学が自費負担となると、田浦地域に住むという選択肢が取られなくなり、地域の存続にも関わります。小学生を対象に公共交通機関を無料とする施策を講じてもらえれば、人口増加につながると思います。

【跡地利用について】

○田浦小学校を廃止するのであれば、跡地の活用として、現在、田浦地域にはないコミュニティセンターや集会スペースなどを新設していただきたいです。また、広域避難場所としての利用の継続についても望みます。

○学校がなくなった場合の地域への対応について、まちづくりの観点を踏まえた検討をしていただきたいです。

【建て替えについて】

○田浦小学校については、少子化という状況なので、老朽化した部分だけを取り壊せば教室は足りるのではないですか。

○法面对策を行えば、レッドゾーンまたはイエローゾーンは解消されるのですか。

⇒土砂災害が起こらないような対策を行えば、レッドゾーンの解除は可能です。

ただし、敷地内で対策を行うこととなるため、建て替え後に運動場として活用できる用地が狭くなります。

○現在の校舎を活用しつつ、校庭に新校舎を建て替える方法以外で建て替える方法がありますか。

⇒諏訪小学校と常葉中学校で、同一敷地内で建て替えを行った事例はあります。この例を田浦小学校に当てはめた場合、田浦小学校を一度他の学校へ移転させて建て替える案も考えられますが、工事期間が長くなることなどを踏まえると、教育環境上好ましいものではありません。

○田浦地域の児童数の減少に伴う教育環境整備の話であるため、その場での学校の建て替えは、児童数の減少の解消にはつながらないと思います。

【地域の実情について】

- 通学区域の範囲の検討については、地域の実情を考慮する必要があり、非常にデリケートな問題だと思います。
- 可能であれば、港が丘地域は田浦連合町内会に属したままにしてほしいと思います。
- 田浦地区は広い集会場がなく人口が多い割に不便です。検討に当たっては、この状況をくみ取っていただきたいと思います。
- 通学区域の検討に当たっては、各地域の歴史など地域の実情を踏まえていただく必要があると思います。

2 走水・馬堀地域

【方策の検討について】

- 小学校は残してほしいですが、現状を鑑みると個人的には難しいと思います。
- 上の子どもと同じ小学校に通わせたいと思っている方が多いです。1クラス10人程度から、中学校では1クラス40人程度となり心配ですが、子どもはすぐに慣れると思います。
- 本協議会の意見が審議会において、反映されるようにお願いします。
- 走水は人を呼び込める環境が整っています。市として、若い世代を増やすなどの対策を行ったほうが良い。
- 3kmの通学距離に、急な坂道があるようなところでは、居住地として走水以外を選ぶケースが増え、走水地域が廃れていくリスクがあります。
- 学校の統合後のアンケートで「慣れた」「増えて良かった」が大多数ですが、それでも小規模校の方が、大規模校よりも「不安に感じる」「増えない方が良かった」が多いのが気になりました。
- 統合を最優先にするのではなく、走水小学校を残す方法を検討しないのですか。
⇒現在、走水小学校は、学校全体で50人に満たない程度にまで小規模化が進んでいます。子ども同士の人間関係や学校運営などの面で、12学級以上（クラス替えができる規模）とすることが望ましいと考えています。そこで、他の小学校区の一部を走水小学校区に編入し、走水小学校の規模を大きくする検討も行いましたが、通学距離の課題に加え、近隣の学校も小規模化していることから、学区を切り分けることが考えにくい状況であり、1つの案として、走水小学校区を馬堀小学校区に再編する方策をご提案しました。
- 少子化の進展と学校の維持にかかる財政負担を考えると、統合もやむを得ないと思います。
- 走水小学校の統合により、走水地域の衰退につながると思います。
- 走水小学校の長い歴史を踏まえると、他の小学校との統合は受け入れがたいです。
- 小規模特別認定校制度を導入することで、走水小学校を不登校児童の居場所とすることができればいいと思います。
- 走水地域は小学校と地域が一体となって支えられているので、検討に当たっては、教育の面だけではなく地域の面からも考えていただきたいです。
- 馬堀小学校も小規模化が進んでいるので、仮に走水小学校と統合したとしても、学

校の規模はそれほど大きくならないと思います。

【地域や環境について】

- 走水は、子どもを育てるにはよい環境です。走水小には、他の小学校にないものがあります。プールが無いために海で泳いだり、海の幸集会やサツマイモを育てて食べたり、ホテルの里の整備や稲作なども行っています。地域との関わりが減ってしまう不安もあります。
- 走水小の教材の豊かさに感動しています。漁業、海の幸、歴史、神話、走水神社、水源地、美術館、観音崎公園、ホテルの里もあります。地域の皆さまと一緒にこの学習材を再発見していくことにワクワクしています。
- 馬堀小は、地域づくり協議会有り、地域の方々が集まり、草刈りや見守りパトロールなどを行っています。馬堀は温かい方が多く、高齢の方も参加しています。

【学校規模について】

- 馬堀小も児童数が減少しており、これまでの活動ができるか心配です。教職員の努力や工夫だけでは難しいこともあると感じており、児童の学習面、集団活動等において活性化した授業を行うには、ある程度の人数が必要であると思います。生活面においても価値観や人間関係が固定化してしまうことが心配です。
- 人数の多い小学校に通うのを辛く感じ、小規模校のような環境を必要としている子どももいることを認識してほしいです。
- 走水小学校に通う子どもたちは、小規模校ならではのデメリットを感じているとは限らないと思います。
- 世界保健機関（WHO）が、小学校は 100 人以下が望ましいとする記事があったり、学校や学級が小規模であれば、教育効果が高まることを実証した報告もあったりするので、学校にはある程度の規模が必要だとする市の考えと食い違っているように思います。
- 少人数での教育もメリットはたくさんあるので、走水小学校を市内全体ないし県外にアピールする場があっても良いと思いました。
- 一定程度の児童数がいれば、児童同士でさまざまな考え方に触れることで、コミュニケーション能力の向上が期待できると思います。

- 新しい教育指導要領のもとでは、子どもたちが主体的になって意見を出し合いながら解決していく学び方になっていますので、少人数の学級では、このような学び方が難しくります。
- 小規模校に通ったからといって、社会不適合者に育つことはないと思います。小規模校の出身ですが、大きなハンディキャップは感じませんでした。
- 少人数であることで一人一人の責任の所在が明確になる面がありますので、少人数だから教育環境が悪いとは言い切れないと思います。

【通学や通学路について】

- 保護者は、統合後、低学年が通学できるか、スクールバスなのか、路線バスなのか、通学補助は出るのかなどを心配しています。
- 通学区域が変わることで、通学距離が遠くなるのが心配です。
- 走水地域から馬堀小学校まで実際に歩いてみると、途中で坂があったり、雨や強風など天候に左右されたりすれば、時間は更にかかるので、通学距離だけでは分からない部分もあると感じました。
- 走水小学校の通学路の一部が海に面しているため、風が強いときなど、長時間にわたって子どもを歩いて通わせることに不安を感じます。
- アンケートの中で、賛成か反対かを問わず、通学距離及び通学の安全面を心配する意見が多かったです。
- 走水地域における通学距離の3kmは、通常の3kmとは事情が異なります。
- 走水地域には信号のない横断歩道がありますので、安全対策の検討が必要だと思います。